

<スーパーを営む M 社の 1 年間の仕訳をしなさい。>

- ① 平成 30 年 4 月 1 日、スーパーをはじめるために、株主より 2,000,000 円の出資を受けるとともに、銀行から 1,000,000 円の借り入れを実行し、普通預金に全額預け入れた。

- ② 平成 30 年 4 月 1 日、備品 300,000 円を購入し、手形を振り出した。

- ③ 平成 30 年 4 月 10 日、従業員から給料日前に前貸ししてほしいと頼まれ、100,000 円現金で支払った。

- ④ 平成 30 年 4 月 30 日、給料日になったので、③の従業員の給料 500,000 円を、所得税 80,000 円、③の前貸し分を差し引いて現金で支払った。

⑤ 平成 30 年 5 月 1 日、建物 1,000,000 円を購入し、仲介手数料（付随費用）100,000 円とともに翌月末に支払うこととした。

⑥ 平成 30 年 7 月 1 日、Y 社社債を 1 口 97 円（額面は 100 円）で 100 口購入し、証券会社への支払手数料 300 円とともに翌月末に支払うこととした。

⑦ 平成 30 年 8 月 1 日、⑤で購入した Y 社社債のうち、20 口を、1 口 150 円で M 社に売却し、代金を D 社振出小切手で受け取った。なお、売却の際に、売却手数料 400 円を現金で支払った。

⑧ 平成 31 年 1 月 12 日、1 m² 100 円の土地を 500 m²購入し、仲介手数料 10,000 円とともに、現金で支払った。

⑨ 平成 31 年 1 月 16 日、⑧の土地のうち、150 m²を 1 m²あたり 120 円で K 社に売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。また、売却手数料 1,000 円については、現金で支払った。

⑩ 平成 31 年 3 月 31 日（決算日）、⑤で購入した建物の減価償却費を計上する。なお、耐用年数は 5 年、残存価額は取得価額の 10%、償却方法は定額法とする。（間接法）

<資産は A、負債は B、収益は C、費用は D、資本は E

を書きなさい>

- ・ 未収入金 ()
- ・ 受取手形 ()
- ・ 支払手形 ()
- ・ 手形売却損 ()
- ・ 立替金 ()
- ・ 預り金 ()
- ・ 給料 ()